

平成29年度第2回市民と市長の対話集会

市長と語ろう！

ほっとミーティング

テーマ ひらつかの「子育て・高齢福祉・安心安全」

開催結果報告書

- 1 開催日時 平成29年（2017年）5月24日（水）
午後7時から午後9時まで
- 2 開催場所 大野公民館 1階 ホール
- 3 参加者 6人 傍聴者 7人



ほっとミーティングの様子

4 市長あいさつ

皆さんこんばんは。本日はお忙しい中、「市長と語ろう！ほっとミーティング」に御参加いただき誠にありがとうございます。

ほっとミーティングは、地域の皆さんのお話を伺い、御意見や御提案を市政に反映することを目的とし、取り組んでいます。

御存じのとおり、全国規模で少子高齢化が進み、人口が減少しています。本市も例外ではなく、行政運営が継続できるかどうか厳しい時代を迎えています。本市では、平成22年11月の26万863人をピークに人口が減っている状況です。国からは、自治体が存続するため、それぞれの地域で抱えている課題を踏まえ、将来を見据えた戦略をたてるように、との指示がありました。

そこで、平塚市は今後目指すまちづくりの計画として、新たな総合計画「ひらつかNext」を策定しました。計画の重点施策を、「強みを活かしたしごとづくり」と「子どもを産み育てやすい環境づくり」、「高齢者がいきいきと暮らすまちづくり」、「安心・安全に暮らせるまちづくり」として、このほっとミーティングでは、「子育て・高齢福祉・安心安全」をテーマに、市民の皆さんから率直な御意見を伺って市政に反映したいと考えていますので、よろしく願います。

また、本日はできる限り私からお答えさせていただきますが、中にはこの場でお答えできないこともあるかと思えます。その際には、事務局から担当課への確認を行い、皆さんにお伝えさせていただきます。本日はよろしく願います。

5 主なミーティングの内容

① 高齢福祉について

【参加者】

高齢福祉を考えるとき、まず、自分自身が健康な生活を送ることができるのが大切だと思います。病気をせずに、元気で楽しめる人生が一番です。一生懸命に仕事をしてきて、生活保護も受給する必要なく、頑張ってきた人たちが多くいます。生活保護受給が悪いわけではなく、こうして当たり前頑張って生活してきた人たちも多くいる現実をしっかりと見てもらいたいです。

老老介護の問題も深刻です。日常的に困るのは、買い物へ行くことが難しいことです。支援については、行政に頼るだけでなく、地域として解決策を検討し、できることを考えていきたいです。

障がいをお持ちの方も高齢化が進んでいます。両親が先に亡くなった場合、取り残されても、生活が出来る環境づくりが求められていると思います。

【参加者】

私は高齢の母がおり、最期は自宅で看取ることができるといいと思います。

【参加者】

私は東中原地区に住んでいます。近所の集会所では、週に1回お茶会があり参加しています。こうした催しに参加ができる元気な高齢者ならいいのですが、外出できない高齢者も多くいます。また、元気でいても自宅にこもってしまっている高齢者もいます。そうした方々が参加できるようになればと思います。

【参加者】

豊田地区では、高齢者の集まりであるサロンを始めて約2年になります。月1回の開催ですが、回を重ねるごとに参加者が増えています。理由は、皆さんの要望をできる限り反映したプログラム作りをしているからだと思います。

参加する方が互いに交流し楽しんでもらうことが、サロンの目的です。それに加えて、突然参加しなくなる方がいた場合、民生委員へ連絡したうえで、様子を見てもらう見守り活動も目的の一つになっています。

【参加者】

私は真土地区に住んでいます。豊田の取り組みは素晴らしいと思います。真土地区でも、町内福祉村の立ち上げについて、自治会や社会福祉協議会などで3年間検討していましたが、意見の集約ができなかった経緯があります。

平成27年度には、歌集を約4,000部作成し、各戸には配布したことがあります。その翌年である平成28年度には、歌集を使った音楽祭を公民館で開催しました。こうした事業には補助金が必要ですが、今年度はいただけませ

んでした。音楽祭には、地域の倉田会も協力いただき、施設に入所している方々にも来ていただき、好評を得ました。こうした皆さんに喜んでもらえる事業は続けていきたいです。ぜひ、資金援助を検討してほしいと思います。

老人会の会員は減少傾向であり、12年前くらいは約8,000人いた会員が、現在は約5,000人です。入会する方がいない状況で、継続できない老人会も出てきています。会員の方が楽しめる機会が少なくなり、困っています。

【参加者】

福祉村やサロンの話題がありましたので、松が丘地区の福祉村について触れたいと思います。この福祉村を開設した目的は、住人の困りごとに対して支えあって解決していこうということでした。3年程経過しましたが、以前の市長から事業に対しての支援があったこともあり、現在に至っています。

平成27年に介護保険法の改正があり、福祉村の事業が総合事業として組み入れられました。その際に、自治会に協議体を作るように、と話がありました。

行政でできないことが、すべて自治会に丸投げされている印象があります。行政として、先頭に立って、高齢福祉対策に尽力いただきたいと思います。

【参加者】

福祉村について、コーディネーター研修会に参加しましたが、県内各市町村では、協議体はすべて社会福祉協議会が担っています。ボランティアでやっている自治会とは、土台が違うと思います。

【参加者】

提案したい内容が二点あります。一点目はシャトルバスの件です。豊田地区はシャトルバスが通っていません。東西に広い地域なので、バス停まで遠い住民が多いです。そのため、市内にある市民病院よりも、交通アクセスの良い市外にある伊勢原協同病院へ通院する住民が多い状況です。通院しやすい環境づくりのため、豊田からでもバスに乗れるよう検討してほしいです。

二点目は買い物問題です。私が小さい頃、近所にある商店で、日常の買い物は足りていました。しかし、そうした商店は少なくなり、高齢者の買い物が難しくなっています。早急にスーパーを誘致してほしいとは言いません。ただ、豊田地区には広い土地がありますから、企業側から、スーパーを建てたいと思うような、柔軟な都市計画を長期的な視点で検討してほしいと思います。

【参加者】

私たちは今まさに、シャトルバスの問題で困っています。「住宅前」というバス停が廃止される可能性があるからです。東中原地区は、シャトルバスの利用者が多い地区です。道路が狭いため、民地をお借りしてバス停を設置していますが、引き続きお借りできない状況になっています。先日、神奈川中央交通と平塚市の交通政策課の担当者が来て、自治会でなんとかしてください、との話

がありました。本来、バス停の設置場所を探すのは自治会の役割ではないと考えています。もちろん、何もやっていないわけではなく、候補先として15軒ほど聞きましたが、すべて断られています。現在、借りているのは6月末まで、国土交通省に設置の届出をするのに、一カ月前に出さないといけないので、困っています。

【参加者】

私たちは、自治会で探したうえで、バス停を設定しました。確かに、バス停の場所を確保することは苦勞すると思います。適当な場所を見つけても、家の前なので、家主さんから断られることがありました。ただ、その際は、近くの駐車場の管理者の方に相談し、バス停を設定したことがあります。自分たちで探すということが必要と考えています。

【参加者】

これは私案ですが、各自治会館をバス停にするような考えもあると思います。

②安心安全について

【参加者】

平塚市は歩道が少ないし、狭い印象があります。自転車事故が多いのも、そうした理由だと思います。政策として検討しないといけません。車に乗れなくなった高齢者が自転車に乗り始めて、危ない運転をしていることがあります。

【参加者】

真土地区にある市道の八幡愛甲線（粕谷道と呼ばれる八幡の旧道129号線沿い元原田酒店から横内を通っている道路）ですが、道路自体が狭く、歩道も無いので、危険性を感じます。交通量も多く、歩行者や自転車が通行する際、すぐ間近を車が通過していく状態です。また、真土自治会館前のカーブは見通しが悪く、スピードを落とさない車が向かってきて、ヒヤリとする場面があります。財政的な面で難しいかもしれませんが、市民の安全を守るためにも、対策を講じてほしいと思います。

三谷町内会のごみ置き場についても懸念があります。第一三共プロファーマ株式会社の北側道路を借りていますが、歩道がないため、プラスチックごみ等の収集時は、ごみを隅へ積み上げるしかありません。そのため、整頓や分別作業をしていますが、道路の幅員が狭いため、車と接触する危険性が高いです。

【市長】

シャトルバスも含めて、交通や高齢者の話がありました。本市には、地域包括支援センターがあります。地域包括ケアの概念は、エリアそれぞれの中で、介護、医療、住まいなどの課題について、支えあっていくまちづくりを指しま

す。そうしたまちづくりを行っていかうというのが、私たちの考えです。その概念には、高齢者の移動手段や買い物などの生活支援、介護予防といった課題も含んでいます。高齢者が急激に増えていく中で、まちづくりの課題が多いと認識しています。概論になってしまって恐縮ですが、課題を一つずつ一つずつ、解決に向けて、取り組んでいかなければならないと考えています。今日いただいたお話は、それぞれの担当課に伝えて、地域だけに任せるのではなく、我々も一緒に課題解決に向けて考えていかなければなりません。

道路については、狭い箇所が多いというのは把握しています。本来であれば、すぐに拡幅をして安全性を高めたいのですが、なかなか用地買収もできずに、解決が難しい部分があります。それでも、住民の方々の安心安全に直結することなので、第一に考えなければなりません。交通政策課や道路を所管する土木部では、危険箇所の認識も出来ていると思います。例えば、反射鏡をつけることで、危険性のリスクを軽減することできるはずです。設置については、危険性を数値化して、本当に必要な箇所につけるなど、慎重に対応しなければなりません。危険性の高い場所については、優先的に対応する必要があります。

また、本市は不名誉ではありますが、自転車事故の危険市町村に、ここ十数年指定されています。事故件数自体は減少傾向であるものの、依然として自転車事故は多いです。自転車通行帯を作ったり、歩車分離をしたり、そうした交通安全対策は考えていく必要があります。

ごみの問題ですが、自治会において作業いただいているところです。置き場については、実際に危険な場所については、循環型社会推進課に言っていただき変更も必要だと思います。この件については、担当課に伝えたいと思います。廃棄物対策審議会からは、収集の仕方を考えないといけないと、戸別収集や家庭ごみ有料化の導入についての提言がされており、現在、戸別収集について検討をいただいているところです。

【参加者】

各地区に避難所があり、市職員からリーダーやサブリーダーが任命されています。今年4月末、避難所の件で打ち合わせをするために、リーダーのもとに行ったところ、人事異動で、担当者が変わっていました。災害対策課に行ってくださいとのことだったので、行きましたら、まだ担当者は決まっていまませんと言われ、驚きました。決まりましたら連絡します、と言われましたが、いまだに連絡がない状況です。危機意識が低いと感じます。関係課に伝えていただければと思います。

【市長】

担当者の件については申し訳ありません。災害はいつ起きるか分かりません。ですから、担当者の引き継ぎが常時できていることも危機対応だと考えます。

【参加者】

まだまだ皆さんに伝わっていないことが多いと思います。私は地域のバリアフリー会議に出席していますが、市の担当者は調査や協議を一生懸命やっています。会議に出ている関係者はそうした努力がわかりますが、他の方々にそういった状況が伝わっていないと感じます。伝わってなければ、やっていないと思われても仕方ありません。広報だけでも足りないので、公民館などで積極的に宣伝するなど工夫できると思います。

また、地域包括ケア支援センターはすばらしい出先機関だと思います。すばらしい制度で、職員は何をやるにしても一生懸命です。ただ、仕事が多すぎて、処理しきれないように思います。少ない人数では担当する地域を十分にまわることはできません。

【市長】

平成29年度から、地域包括支援センターを10箇所から13箇所に増やしています。少しずつですが、エリアの中のサービス展開をきめ細かくしています。しかし、将来を考えると、さらにきめ細かに対応しないといけないかもしれません。そうした認識は福祉部でもしています。3箇所増やしたから、これで足りているというわけではなく、常に仕組みや配置は考えていく必要があります。

【参加者】

避難所の件ですが、役員をやって4年目になりますが、内容の薄い会議ばかりをしているように感じます。市内南側の避難所では、津波対策の訓練も含めいろいろやっていると思いますが、北側の地域では、対策の関心が低いように思います。担当である教育委員会に伝えても、防災のことは分からないと言われてしまいます。いざというとき、組織が機能するかどうかが不安があります。

東中原の自治会は、3つの単自治会があって、自主防災組織は単自治会が組織しています。連合としては自主防災組織がありません。避難所運営委員会というのは、決められても単独で組織に入るのは会長と書記のみです。他のメンバーは兼務することになります。したがって、兼務する方は、自主防災組織で活動するのか、避難所で活動するのか難しいのです。

【参加者】

昨年、市で作成した共通の避難所マニュアルの説明を受けましたが、豊田地区にそぐわない点が多々ありました。変えてもらわないと、運用できないと複数回協議をした結果、市が内容を変更してくれました。現在は、豊田地区オリジナルのマニュアルが作成されています。

そうした点から、年度の打ち合わせは出来る限り早く開催したいです。例年、7月頃の集まりで、遅いと感じます。自治会長は1年任期で変わってしまいま

す。事前にマニュアルの内容を把握していないと、いざというとき混乱します。できる限り、前倒しで各地区への説明をお願いしたいです。リーダーの名前と顔がすぐに分からないというのは問題だと思います。

【参加者】

真土地区では、真土小学校が広域避難場所として指定されていますが、平成24年に配布されたハザードマップでは、海拔7.6メートルと、近隣の小中学校よりも1メートルほど低くなっています。少しでも雨が降れば、水が溜まってしまいます。大きな地震が発生し、津波があった場合、相模川のオーバーフローを避けるため、湘南銀河大橋付近で水を流すエリアがあると聞いています。真土地域は以前から、水に弱い地域なので不安です。

また、大野公民館運営委員会があった際、災害発生時の議論がありました。新築の大野公民館は使い勝手がよいので、避難場所として最低限の配慮をしてもよいかと考えます。9カ所のマンホールタイプのトイレがありますが、目隠しがついて女性も対応できるものが2カ所しかないのは課題です。毛布などの備蓄ももう少しあればいいと考えています。

【参加者】

今年から11,400円だった耐震診断の費用が無料になりました。いい施策だと思います。地震があった際、一番安全なのは自分の家だと思います。自分の家をどう守っていくかを考えることが大切です。

【参加者】

地震の話があったので、お伝えしたいと思います。私は、東日本大震災が発生した際、宮城県の親族宅へ行っており、実際に被害に遭いました。自分自身が飛ばされるほど、揺れはひどかったです。電気も水道も使えませんでした。ガスはプロパンだったので、食事はできました。電気がないために、ろうそくの灯りで過ごす日が続いて、つらかったです。家は宮城県の海側の地域ではなかったのですが、津波は大丈夫でしたが、怖い体験でした。

【市長】

避難所運営委員会については、表面だけでなく中身もしっかりしないといけないのは御指摘のとおりです。災害対策については、組織全体で役割があります。現在、教育委員会が避難所についての役割を担っています。こうした意見があることを伝え、組織の中における意識付けを明確にするよう伝えます。担当者の引き継ぎや打ち合わせについても改善できればと思います。

津波対策も含めて、防災訓練の在り方についても検討が必要です。神奈川県が示した当初の津波の高さは6.9メートルでしたが、見直しがあり、9.6メートルの想定になっています。駅南側のエリアには、高くて3階建て以上のビルなどを78か所、津波避難ビルとして指定しています。

相模川沿岸のエリアについては、今年度中に、湘南銀河大橋の下の箇所にて堤防ができます。これで完全に安心というわけではないですが、神奈川県としても、想定外を見据えた災害を考慮しており、それを反映して、ハザードマップを示したいと思います。

耐震診断の無料化については、神奈川県も補助していることから、市として積極的に進めました。問題なのは、実際に耐震化が必要な建物の改修です。改修についても、補助はあるのですが、金額が高いため、なかなか進んでいません。必要な建物の改修がスムーズに進むようにしてもらおう努力は必要だと感じています。ただ、耐震診断の無料化によって、診断件数は増えていると聞いており、全体の耐震化の一助につながればと思います。

東日本大震災の時は津波による被害でしたが、阪神淡路大震災の時は地震で倒壊した建物が通電した際の火災の影響が大きかったです。そうした火災を防ぐためにも、狭い道路の多い地域の方々に感震ブレーカーを配布しました。今年からは500円で有償配布を予定しており、使用いただくことで安心につながる部分があると思います。

③子育てについて

【参加者】

神明中学校の制服が、幼稚園児の制服のようなデザインです。冠婚葬祭に活用できないデザインでは、他校と比べ不公平感があります。何度か学校側に指摘をしているのですが、変わりません。

【市長】

制服のデザインについては、学校、子どもたち、親御さんがどう考えて判断するかが出発点になります。子どもたちがアンケートを取るなどして、総意の意見として、変えたいというのであれば、検討委員会を作るなどして、段階を踏んでいくのは問題ないと思います。こうした意見があったことは伝えていきたいと思います。

【参加者】

医療的ケアが必要な子の就園について、対策が必要と考えます。東中原の子育て広場では、どんなハンディキャップの子でも、仲良く遊んでいます。その中で、経管栄養を3時間置きにしないといけない子がいましたが、希望する幼稚園や保育園などに就園できずにいます。今年の3月2日に、市議会の傍聴に行った際、ある議員が質問をしており、健康・子ども部長が答弁していましたが、受け入れの環境が整っていない、事故があった際に責任を負えない、他の子ども達に影響があるなどの回答でした。あまりにも、子の立場にたっていない

いような回答で、残念に感じました。

【市長】

課題として、認識しています。行政として、医療的ケアが必要な子に何ができるのかと検討しなければなりません。公立幼稚園や公立保育園でも、なかなか受け皿として機能できていないのが実情です。公立の施設が受け皿になれるか、民間の施設で受けてくれるのか見極めていく必要があります。一番可能性があるのは、医療法人などの医療ノウハウを持っている組織が施設を運営して、受け皿になると安心だと思っています。

それに関連して、病気のときの子の預け先がない点も課題として認識しています。病後児保育は対応している施設がありますが、病気のときに受け入れてくれる施設はまだありません。子が病気でも、親御さんは働かなければならないこともあります。そうした現状があり、効果的な対策を立てる必要性については、健康・こども部でも強く認識しているところです。

【参加者】

障害者については、対策を講じているのは分かるのですが、医療的ケアが必要な子については、足りていません。確かに条件的に難しい部分もあります。ただ、対象の子の場合、3時間おきに、管で栄養を与えるくらいです。子育て広場に遊びに来ていたときは、親が対応していました。周りの子への影響がある、と市議会で部長が答弁していましたが、同世代の子どもたちは、そんなことは関係なく、みんな仲良くやっていました。現状を把握していただいて、検討してくれるとありがたいです。

【参加者】

子育てではないのですが、月に1回程度、福祉会館へ行きますが、雨が前日から降っていた場合など、福祉会館と中央公民館の間の駐輪場が浸水していることがあります。水はけが悪く、逆流しているようです。大きな工事は必要ないと思いますので、排水の対策を講じていただければと思います。

【市長】

担当課に伝えたいと思います。

6 市長によるまとめ

本日は皆さん、率直な御意見をいただきまして、ありがとうございました。本市職員も誠心誠意、業務を担っているわけですが、なかなか皆さんが満足いただけたところまで至っていないということについては、反省をしながら、行政サービスを進めていかなければならないと考えています。

高齢福祉の問題については、それぞれの地域の中で支えあいをいただいているところです。決して、行政が地域に業務を押し付けている、というわけではないことを御理解いただければと思います。国の政策でも示していますが、皆さんで支えあう仕組みをしっかりと作ることで、サービスを受ける方、提供する方、それぞれが活躍できる社会を構築していくことが大切です。

ただ、予算という枠組みの中で、何を優先させるかどうかを考える必要がありますし、また、国の補助事業を上手く活用しながら、進めていくことが求められます。地域包括ケアシステムをどう支援していけるか、常に考えていく必要があります。

地域全体において、福祉、子育て、買い物、交通等の課題がありますので、本市が住みやすい街となるために、皆さんと一緒に考えさせていただきたいと考えています。

今日は皆さんそれぞれが活躍しているお立場でお話しいただきましたこと。改めて御礼申し上げます。指摘をいただきましたことについては、担当課にお伝えすることにします。

市民の皆さんが、健康で元気に生活できるために、予算配分を含めて、行政サービスを展開していけるよう、連携した体制作りを進めていきたいと思いません。本日は、ありがとうございました。

アンケート結果報告

【アンケート回答数 11件】

問1 市長の説明や市長との対話はいかがでしたか。

よかった	5人
まあよかった	6人
どちらともいえない	0人
あまりよくなかった	0人
よくなかった	0人
回答なし	0人

問2 本日の「ほっとミーティング」のご感想について。

- ・市長の誠実な答え、話し方はとても聞きやすく、聴き取ろうとする気持ちが読み取れてよかった。
- ・役職のある人の参加が多いが、一般市民の意見を聞けるようにしてほしい。
- ・市長だけでなく、市議会議員にも市民の声を聞いて頂きたい。
- ・もっと多くのかたが参加するようにできればと思います。
- ・参加者を配慮した良い意見交換ができたと思います。
- ・高齢福祉の問題は、各地域で苦勞が多いように感じます。
- ・安心安全と子育ての問題は、一般的には難しいと思います。
- ・大変勉強になりました。
- ・緊張しましたが、参加させていただき良かったです。